

報道機関 各位

2020年5月26日

一般社団法人 日本画像医療システム工業会

2020年度 JIRA 活動基本方針のご報告

一般社団法人 日本画像医療システム工業会(JIRA)は、今年度の活動基本方針を策定しております。本稿では「2020年度 JIRA 活動基本方針」についてご報告します。

はじめに

一般社団法人日本画像医療システム工業会(JIRA)は、X線装置、X線CT装置、MRI装置、核医学装置、超音波診断装置、画像処理システムなどの画像診断機器・システム、および放射線治療用装置、さらには、これらの関連用品などを開発、製造、販売している企業の団体です。1967年に「日本放射線機器工業会」として発足以来、日本における放射線医療の発展とともに歩み続け、今日では画像医療システムとそれらの関連機器・用品を供給する会社に加えて医療ICTを事業とする企業などの参加を得て、約200社を擁する産業団体に成長しております。

医療機器産業は日本経済の成長の柱の一つとして期待され、その中でも画像医療システム産業は国際的に競争可能なポテンシャルを有し、国の政策等と連携することで産業成長をリードし日本及び世界の医療へ更なる貢献が出来る分野です。

JIRAは社会環境の変化に対応し、医療現場のニーズに応える技術や製品をいち早く提供するために、これまで築いてきた環境・基盤に加えて、今後必要とされる環境作りに向けた政策や規制への提言を行うとともに、関係される方々に有用な情報の提供・共有を行ってまいります。

こうした中、JIRAは画像医療システム産業ビジョンを定め、毎年度その年の画像医療システム産業のトレンドや政府の方針などの外部環境変化への適応を踏まえ、年度活動基本方針及び事業計画を立てて活動しております。

本稿では2020年度の活動基本方針と事業計画の概要をご報告させていただきます。

2025 年 画像医療システム産業がめざすビジョン

人口構成の急激な変化により超高齢社会へと社会構造が大きく変化し、顕在化している社会保障費の増大、生産年齢人口の減少等の課題解決が、国を上げて取り組まれている。

政府は、健康寿命の延伸、人生 100 年時代、働き方改革といったテーマを掲げ、団塊の世代が後期高齢者（75 歳以上）に達する 2025 年問題に向けて社会保障等の改革を進めるとともに、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年を見据えた具体的な施策の検討も進めている。

また、高齢化は世界各国で同様に進んでおり、政治、経済等の情勢も変化している。

こうした状況を踏まえ、2013 年に策定し進めてきた「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2020」を、2019 年 4 月に「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025」として改定した。

JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025

第 1 のビジョン

社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

- 社会の動向（少子高齢、個別化医療等）にマッチした高精度・高機能、低侵襲の画像診断・治療等の技術探求と創造により、以下を実現する。
 - ◆ 予防・診断・治療の連携強化と、早期診断・低侵襲治療による健康寿命の延伸
 - ◆ 新たな医療産業分野と連動した画像医療システム産業の強化・拡大

第 2 のビジョン

革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

- 画像医療システム産業への AI、医療 IoT、医療ビッグデータ、次世代通信技術等の活用促進により、以下に貢献する。
 - ◆ 臨床価値の創出と診断支援技術の拡大、診断と治療の連動、医療の効率化
 - ◆ 遠隔医療、地域包括連携、予防、在宅等の関連産業創出

第 3 のビジョン

日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

- 画像医療システム・サービスの国際展開に必要な国際整合、地域別規制対応により、以下をめざす。
 - ◆ 日本の医療システムの海外展開の加速による世界の医療への貢献
 - ◆ 医療機器及び関連産業の輸出拡大

第 4 のビジョン

社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

- エネルギー問題、サイバー攻撃、自然災害、就労人口変化等に適応した画像医療システムの開発促進により、以下をめざす。
 - ◆ 優れた環境性能（省エネ、小型、ユーザビリティ等）を持ち、緊急時も持続可能な医療の提供
 - ◆ 医療ネットワーク上の脅威に耐えうるサイバーセキュリティの確保

2020 年度 JIRA 活動基本方針

2020 年度の JIRA 活動基本方針は、「JIRA 画像医療システム産業ビジョン 2025」にある 4 つのビジョンの実現を目指し策定された。

1. 社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

超高齢社会の課題である「健康寿命の延伸」には、早期診断・低侵襲治療を支援するモダリティ・機能の提供、予防・診断・治療など広範な分野での医療情報の連携、多種多様・大量の医療情報を分析し新しい視点を提供する技術開発、個別化医療（パーソナライズド・メディシン）の実現、新たな医療産業分野との連動が重要である。

JIRA は、

- 医療保険制度、医療法、薬機法等に関する行政への提言
- 他団体との連携、啓発活動
- 画像医療システム産業の裾野の拡大

を積極的に取り組んでいく。

2. 革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

人工知能、医療 IoT、医療ビッグデータ、次世代通信技術等、革新的なデジタル技術が医療の質向上に貢献し始めており、画像医療システム産業拡大へのチャンスでもある。

これらの技術の活用は、画像診断支援、患者/医師の負担軽減、新たな診断・治療の連動、医療現場の効率化も含めて、画像医療システム産業が新たな時代構築の先駆けとなっていくことが想定される。

JIRA は、

- 画像医療システムへの AI(人工知能)活用基盤整備
- IT 産業、医療系ベンチャー企業の支援
- 医療従事者の生産性向上に寄与する機能拡充への支援

を積極的に取り組んでいく。

3. 日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

画像医療システム・サービスの国際展開には、地域の医療機器に関する規格・制度への対応、地域の医療ニーズに応じた画像医療システムの提供、地域の政情・経済・環境・社会・技術動向等様々な情報収集が重要である。

JIRA は、

- 標準化(ISO・IEC・JIS・JESRA 等)活動の推進
- 医療機器に関する規制の国際調和推進(IMDRF・DITTA 活動への参画)
- 海外進出支援

を積極的に取り組んでいく。

4. 社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

日本の医療技術・医療機器システムは「安全・安心で安定した医療の実現」に貢献してきているが、近年、サイバー攻撃の巧妙化、労働人口の減少等の社会環境変化や、地球温暖化等の自然環境変化への適応が重要度を増してきている。

JIRA は、

- 医療環境を阻害するリスク(サイバーアタック、感染等)への対応の啓発
- 装置メンテナンスに関する価値の訴求
- 環境負荷の低い省エネ型システムへの移行促進

を積極的に取り組んでいく。

5. JIRA 基盤活動の充実

JIRA は、4 つのビジョンを実現するための基盤として、以下の活動について充実を図る。

- コンプライアンスに関する啓発活動の推進
- JIRA 会員へ提供する価値の向上
 - ◆ 企業人材育成を支援するセミナーの充実
 - ◆ JIRA 活動に参加しやすい IT インフラの整備
 - ◆ 部会・委員会活動メンバーのプレゼンス向上、支援、継続性の確保
 - ◆ 会員向け情報発信の充実
- 既存活動の継続的推進
 - ◆ 広報活動の強化
 - ◆ 調査・研究活動の強化
 - ◆ MRC 認定制度の拡大
 - ◆ 薬機法に基づく継続的研修の開催
 - ◆ 展示事業の推進、ITEM の Web 開催対応

JIRA画像医療システム産業ビジョン2025

第1のビジョン

社会の変化に先駆けた世界をリードする医療イノベーションを実現する。

2020年度JIRA活動基本方針

- 医療保険制度、医療法、薬機法等に関する行政への提言
- 他団体との連携、啓発活動
- 画像医療システム産業の裾野の拡大

第2のビジョン

革新的なデジタル技術の活用により、医療の質向上と医療機器産業拡大に貢献する。

- 画像医療システムへのAI(人工知能)活用基盤整備
- IT産業、医療系ベンチャー企業の支援
- 医療従事者の生産性向上に寄与する機能拡充への支援

第3のビジョン

日本の優れた医療、医療システムを世界に提供し貢献する。

- 標準化活動の推進
- 医療機器に関する規制の国際調和推進
- 海外進出支援

第4のビジョン

社会・自然環境の変化に適応したシステムの提供により、安全・安心で安定した医療を実現する。

- 医療環境を阻害するリスクへの対応の啓発
- 装置メンテナンスに関する価値の訴求
- 環境負荷の低い省エネ型システムへの移行促進

- コンプライアンスに関する啓発活動の推進
- JIRA会員へ提供する価値の向上
- 既存活動の継続的推進